

[夏休み前にやっておきたいこと]

気持ちよく夏休みを迎えよう



1 「毎日暑くて、子どもも集中力がなし、疲れもピークで…」

新米先生のこんなつぶやきが聞こえてきそうな夏。7月頃になると、子どもたちひとりひとりの良さや成長が見えてくるとともに、課題も現れてきます。それに加えて、先生自身もそろそろ通知表の準備が忙しくなってくる頃でしょう。

7月は1学期のまとめをする大切な時期です。子どもの様子をしっかりとまとめ、新たなめあてをもつようにさせ、夏休みや2学期への意欲につなげていきたいですね。また、同時に先生自身も、2学期を視野に入れて行動していきたいものです。

2 「平等に見ているつもりだったのに…」

通知表の所見をいざ書くとすると、どうしても書く内容が浮かばない子が出てきます。特に目立つわけでも、とりたてて何かが得意なわけでもない「ふつうの子」と、つい言葉がちな子です。

私が新米だった頃、「書けない子がいる」と愚痴をこぼしたところ、先輩先生からこんな注意をされました。

「他の子と比較すると、そういう子はほとんど並の評価になるのよ。それでは書けないわよ。あなたはその子をじっくり観察したり、たくさん会話をしたりしたことがある？」

みんなを平等に見ているつもりだった私は、ショックでした。私の目はついつい、目立つ子や配慮が必要な子に集中していて、目立たないけれど地道にコツコツ努力していた子には向いていなかったのです。

その日から、じっとその子を見つめるようになりました。そうするとその子の良さが本当によくわかってきました。

成績をつけたり、所見を書いたりすることで見えてくる、自分自身の子どもの見方の「くせ」を客観的に分析して、次の評価に生かしていくことが大切だと思います。

○ 所見を書くときのポイント

「学習面」「生活面」の両面から、子どもひとりひとりの変化や進歩の状況を把握して、それを子どもや保護者に正しく伝えるようにしましょう。

【学習面】

学習指導の記録を整理し、各教科の学習において、どのような学習状況で、どんな力が伸びてきているのか、さらに改善が必要なのは何かをしっかりとめることが大切です。1学期に身につけなければならぬ基礎基本が定着しているか、学習のルールはしっかり守れているかをもう一度確認します。

【生活面】

子どもの日常の生活の様子を、友達とのかわり方、係や当番活動への取り組み、挨拶

それいけ!

新米先生

や返事の仕方、言葉遣いなどの面から把握します。できる限り子どもの良い面を認め、評価するようにします。

3 学校と家庭の連携を

でも、なかにはなかなか学習のルールが定着しなかったり、友達とうまくコミュニケーションがとれず、けんかになってしまったり、みんなと一緒に行動がとれなかったりする子もいます。学校だけでは無理な場合は、保護者会や個人面談、通知表などで正しく伝え、保護者の協力を得るようにしましょう。

特に長い夏休みですから、めあてをもって取り組むかどうかで大きな違いがでてきます。子どもの課題について、「一緒に頑張りましょう」という姿勢で取り組んでいきます。

お願いしたからには、2学期初めには学校でも責任をもって気をつけて見ていき、少しでも改善が見られたら、すぐにご家庭に連絡を入れると保護者との信頼関係も強まります。

ただし、お願いするのは具体的な解決方法があるものだけにしてください。「消極的なので…」という性格的な課題を保護者に伝えるところ、「どうすれば積極的になるんですか?」と逆に尋ねられ、保護者とうまくいかなくなってしまった先輩の話も聞きました。

課題を保護者の方に伝える時の表現は難しいので、ベテランの先生に確認をとってからの方が安心できます。

4 教室内の片付けもしっかりと

【作品はせめて学期内に返却】

子どもの作品で、1年間ためておくものでなければ、学期のうちに返却するのがマナーです。机や棚を整理したら、後でコメントを書こうと思っていたプリントや作文の束が見つかるとはありませんか?

通知表を終えて終業式を迎える日までの数日間がチャンスです。スタンプや短いコメントなど、見たことがわかる印をつけてどんどん返却してしまいましょう。

【掲示物もしまっておくと色褪せない】

2学期も継続して使いたいなど思っている掲示物も、できれば外して日の当たらない場所に保管しておくとし褪せが防げます。もちろん学級目標などの大きな掲示物は大変なので外さなくてもいいですが、子どもの観察表を入れるクリアファイルや習字、学年だより、学級通信等の掲示物は、外してしまっておくといいでしょう。意外と1ヶ月の間に日焼けするものです。

5 先生もしっかり休んで

夏休みとはいえ、学校によってはサマースクールや「学習の日」などの補習、夏季プールがあり、新米先生はなかなかゆとりと休めないかもしれません。でも、上手に時間を

見つけてリフレッシュすることも大切です。子どもがいない夏休みだからこそ、思いきって休みをとることも心と体には必要です。研修やプール当番、日直の予定をあらかじめ確認して、まとまった休みをとれるように計画してみましよう。ゆっくり休んでおかないと長い2学期に息切れしますよ。

夏休みを迎えるにあたって、また2学期をよりスムーズにスタートさせるために、しっかりと準備をしておきましょう。さあ、よい夏休みを!!

